

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成28年度第6回情報教育研究合同委員会議事記録
情報教育研究委員会
情報リテラシー・情報倫理分科会
分野別情報教育分科会

- I. 日 時：平成29年3月6日（月） 13：30～15：30
II. 場 所：アルカディア市ヶ谷 7階鳥海
III. 参加者：屋代担当理事、斎藤委員長、笈トバ伊、大原トバ伊、玉田主査、伊藤委員、高岡委員、和田委員、金子委員、本村委員、児島主査、阿部栄委員、角田委員、武藤トバ伊、(Skype)牧野委員
事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

問題発見・解決思考の情報リテラシー教育モデルの授業方略について、今年は詳細設計を行い、多くの大学に4月から取り組みができるように提案するために、情報系のある大学とない大学それぞれでどのように時間配分を工夫してカリキュラムに組み入れていくのか方向性及び委員会としてどのような体制を組んでいくのか検討する必要がある。

また、情報教育研究委員会としては、文系理系以外の情報系1年生からの授業について、ここでの検討結果に合わせて情報専門分科会で授業方略を整理してはどうかとの意見があった。

今回は、委員から提案された具体的な授業モデル実施の計画案から検討を進めた。

1. 分野別の授業モデル実施案について

- ① 理系専門教育として、エネルギー問題をチームで考えさせる3回分の授業案、3年生後期で12～1月実施が提案された。追加したい記述として、前期PBL授業の中で問題解決の学修機会があること、評価方法や成果物について要望があった。
- ② 1年基礎セミナー授業の中で、まちづくり提言コンペの授業で、6回分をICTを活用した問題発見能力育成の実施案が提案された。リテラシーガイドラインのどこに対応するのか記述することの意見があった。
- ③ 1年前期リテラシー授業の中に組み込むことを想定として、操作修得中心の授業の中に、社会的な課題などのテーマを提示して、3回程度の授業でグループワークと宿題を組み合わせ、グループウェア等を活用したチーム学修を通じて、思考する枠組みを活用して問題発見・解決に取り組ませる実施案が提案された。
- ④ 1年でのゼミ形式を想定した1回分授業でのモデルを提示しシミュレーション活用例として、多数決の課題や戦略の選択の2例をエクセルを使って科学的な見方から問題発見の枠組みを体験させる実施例が提案された。
- ⑤ 文学部3年プレゼミの中で、本の情報を調べ紹介し、小論文企画書作成で論理的な思考を身につけさせることを、3～5回授業の中で、テーマを選ばせ作者と編集者のペアワークで理想と現実の課題解決を通じた企画書作成の提案された。取り組みの中にICTを活用して合理的判断思考の仕掛けを入れられないかとの意見があった。
- ⑥ 情報処理基礎（1年前期）、データ分析（2年前期）授業では問題解決のサイクルを複数経験させる、Webデザイン（1年後期）、プログラミング（2年後期）、DTP演習（2年後期）では問題解決を丁寧に学修する実施案が提案された。

教材開発としては、教科書を枠組み理解の理論編と専門分野の実践編、指導ガイド、論理編に対応したプレゼン資料の準備を考えている。大会で教科書等を紹介し、2,3月での教員研修を実施してはどうか。

2. 初年次教育の中で問題発見・解決思考の枠組みを学修させる普及について

- ・ シラバスの準備に向けては、12月ごろまでに初年次教育の中で、枠組みとして15回分または、科目が設定できなくとも数回分の組み込みパターンの提案ができないか。
- ・ 初年次教育カリキュラムの中に組み込むためには、一つの授業で担当するのではなく、複数の授業で担当するシラバスやカリキュラムマップのパターン・例示が提案できないか。
- ・ 4年間のカリキュラムマップの中で、教員間で連携し、到達目標・到達点を部分的に担当を分けた整理が必要ではないか。大学の対応力によって選択できるような提案が必要ではないか。
- ・ 教育方法を普及させる機能として、授業の方法などについての一例を授業マネジメントの道しるべとして5分程度のビデオ数本を作成してはどうか。
- ・ 情報通信系1,2年でのリテラシーとの関連整理、栄養学・被服学分野のモデルも考えることにした。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回は、3月29日に合同委員会を開催することにした。
- ・ 玉田主査には、複数の授業で分担する仕組みでのカリキュラムマップ・シラバスをイメージしたパターンを数種類提案いただくことにした。その上で、大学が選択できるような枠組みを検討することになっている。
また、理系のフォーマットを用いて、栄養学を武藤先生に、被服学を阿部先生に授業モデル案を提案いただくことにした。